

校長室より

第25号

「天空高き」



平成23年8月29日

さあ2学期に向かって ― 時を守り 場を清め 礼を正す ―

2学期をスタートするにあたって柔道部の石内君兄弟が素晴らしいプレゼントを我々に贈ってくれました。兄の裕貴君は100kg級で見事に全国を制覇しました。弟の翔梧君は2年生ながら66kg級で全国3位になりました。「一生懸命努力すればいつかは報われる」「夢は叶う」ということを我々に示してくれました。石内君兄弟を筆頭に柔道部の諸君や監督の赤尾先生が我々に感動と勇気を与えてくれました。今度は我々が運動会や文化祭(楽学祭・若鷹祭)で、感動と勇気を多くの皆さんにプレゼントしようではありませんか。

V国体でも狙う

秋田県であった全国高校総体(インターハイ)柔道男子100kg級で優勝した岩国市の高水3年石内裕貴選手(18)が17日夕、帰郷した。JR新岩国駅では同校の生徒や教職員約100人が出迎えた。弟の2年翔梧選手(17)も66kg級で3位になった。

裕貴選手が翔梧選手と一緒に改札口に姿を見せると、駅構内は歓声と拍手に包まれた。生徒たちは「優勝おめでとう」と書かれた横断幕を手に出迎え、2人に花束を贈呈した。

100kg級の試合は11日にあり、裕貴選手は1回戦

インターハイ制し帰郷



新岩国駅構内で祝福される石内裕貴選手(手前右)と翔梧選手(同左)

から準決勝までの5試合すべてで一本勝ち。決勝は前橋育英(群馬)のカナダ国籍の選手と対戦し、最後まで攻めの姿勢を崩さず優勢勝ちした。2回戦敗退だった前回大会の雪辱を果たした。前日にあった66kg級で翔梧選手が3位に入ったことも「刺激になった」と明かす。

山口国体にも出場する裕貴選手はインターハイの試合後、休む間もなく翔梧選手とともに東京に移動し、6日間の強化合宿をこなした。「国体でも優勝を目指す」と意欲を燃やしている。高水の選手のインターハイ・柔道での優勝は2006年の100kg超級以来2人目。(大村隆)

言葉の力ー常にポジティブな言葉をー

野球応援をするとき、攻撃の時には常に明るく、元気のでる積極的な応援をします。吹奏楽部も勇ましく元気の出る曲を演奏します。「かっせかっせ ○ ○ ！」。エラーしても「どんまい」。試合に負けても「よく頑張った」とねぎらいの言葉を掛け、勝った相手チームにエールを送ります。

今年も暑い毎日ですが、「こんにちは、今日はまた暑いですね！」と挨拶されたときに、皆さんはどのように答えますか。

「こんにちは、本当に毎日暑いですね。食欲もなく、ぐったりですよ。」それとも、「こんにちは、本当に毎日暑いですが、スタミナのあるものを食べて汗をかけば、すかっとして元気が出ますよ。」

後者の方が前向きな、元気の出る挨拶ですね。

1日の最初の挨拶が、明るいか暗いか、積極的か消極的か、元気の湧く言葉かそうでないかによって、随分と人の気持ちは違いますね。また、明るく、元気な、挨拶は次の行動にも大きな影響を与えます。前向きで積極的な気持ちになります。

人間の思考は行動か言葉によって現れます。言葉というものは、思考が結集し、それを表現するために出来たものです。

思いや考え方が言葉となって現れ、あるいは文字、あるいは行動になって、人間同士がお互いの気持ちを理解し合うようになっています。

いつでも、どこでも、誰に対してでも積極的な言葉を使おうではありませんか。相手を思い遣る善良な言葉、勇気ある言葉、お互いの気持ちを傷つけない言葉、お互いに喜びを与える言葉使おうではありませんか。それが習慣化することによって自分の人生が大きく良い方向に変わります。1日の始まりは、明るく元気な「おはよう！」ですね。そして、1日の終わりは、ぐっすりと安らかに「おやすみなさい」ですね。

言葉には、万物を創造する力がある。

言葉は魔法の杖なのだ。

人は、魔法の杖を使って、どんな人生を創ることができる。

池田晶子「言葉の力」より

緑のカーテン、その後のご報告・・・！

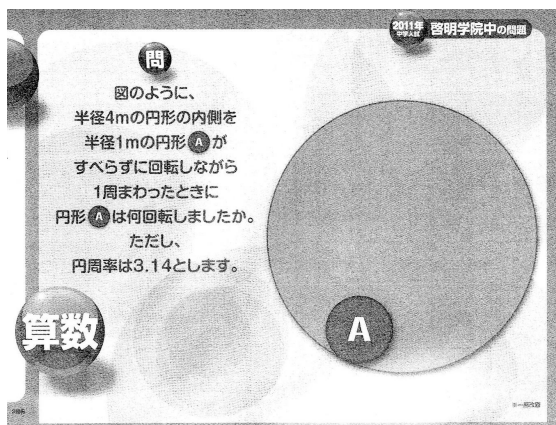


緑のカーテンは、日に日に成長を続け、今日現在（8/26）で23本収穫することが出来ました。本来の目的は、夏の熱い日差しをやわらげ、室温の上昇を抑えるためでしたが、思わぬ自然の恵みにも預かりました。毎日水やりをしながらゴーヤの生長の様子を観察していましたが、そこからたくさんのことを得ることができました。

緑のカーテンをしているので、ほとんどエアコンを入れませんでした。校長室を通り抜ける風は、朝晩は涼しい風を運んでくれますが、日中は生ぬるい風になりますので、随分汗をかきました。しかし晩酌のビールが喉を通るときの爽快感と開放感で汗も引いていきました。（生徒諸君には不謹慎ですがご容赦下さい）また、窓を開放しているので、朝晩と日中とでは蝉の鳴き声の種類が違うことに、あらためて気付かされました。ゴーヤの黄色い花に蝶やトンボなどが日々訪れ、目の保養にもなりました。生き物を育てることにより私の心と身体はたくさんのことを発見しました。

シカクいアタマをマルくする！

2011年、啓明学院中学の入試問題（算数）です。すぐに解けたので解答を見ると見事に間違っていました。結構（丸1日）考えてもわからないので、100円ショップで購入にした算数グッズを使って、作図してみました。すると、自分でもビックリするくらい、アッという間に解けてしまいました。「百聞は一見に如かず」（To see is to believe.）ということわざを思い出すと同時に、恐るべし100円ショップ様々でした。皆さんもチャレンジしてみてください。



一般常識テスト(朝テスト)にチャレンジ!

昭和57年(1982年)に実施された一般常識テストです。前回と同様、第2代山本真喜雄校長先生が作成されました。当時全校生徒、中1～中3、200名中、50点以上が2名でした(中2—1名、中3—1名)。最高点53点。45点以上1名(中3)。40点以上11名(中1—3名、中2—4名、中3—4名)でした。難しい問題だったようですね。

当時在籍していた保護者の方が多数おられます。家族でチャレンジしてみてください。
※文化勲章(ぶんかくんしょう)は、科学技術や芸術などの文化の発展や向上にめざましい功績のある者に授与される日本の勲章。当時の内閣総理大臣・廣田弘毅の発案により、文化勲章令(昭和12年2月11日勅令第9号)を以て制定された。親授式が毎年11月3日の文化の日に皇居宮殿松の間で行われ、天皇から直接授与(親授)される。2010年(平成22年)現在、351名。

1. 日本の文化勲章は、1937年(昭和12年)から授与され始めた。
次の15人の人たちは、いずれも1970年までの受章者であるか、どういう
方面の功績によるのであろうか。下から選んで、A、B、C……で答
えよ。(同じものを2度使ってはいけない。)

- ①長岡半太郎 ②横山大観 ③西田幾多郎 ④鈴木梅太郎
⑤木原均 ⑥梅原龍三郎 ⑦高浜虚子 ⑧緒方知三郎
⑨斎藤茂吉 ⑩伊東忠太 ⑪牧野富太郎 ⑫山田耕作
⑬金田一京助 ⑭北村西望 ⑮志賀潔

(A)病理学 (B)植物学 (C)物理学 (D)遺伝学 (E)アイヌ文学
(F)細菌学 (G)ビタミン学 (H)哲学 (I)日本画 (J)洋画
(K)短歌 (L)俳句 (M)音楽 (N)彫刻 (O)建築

2. 次の文学者は、いずれも文化勲章受章者である。それぞれの
代表作を下から選んで、ア、イ、ウ……の記号で答えよ。

- ⑯幸田露伴 ⑰志賀直哉 ⑱山本有三 ⑲武者小路実篤
⑳吉川英治 ㉑川端康成 ㉒谷崎潤一郎 ㉓井伏鱒二
㉔永井荷風 ㉕佐藤春夫

(ア)宮本武蔵 (イ)黒い雨 (ウ)路傍の石 (エ)殉情詩集
(オ)真理先生 (カ)雪国 (キ)暗夜行路 (ク)すみだ川
(ケ)坊ちゃん (コ)細雪 (サ)五重塔

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25